

北九州歴史文化遺産 第二十五回

人、海峡を結ぶ門司ヶ関



下関・火の山（手前）から海峡を挟んで望む門司ヶ関。その歴史は人を引き付ける

ワカメ刈り神事で知られる門司区・和布刈神社一の鳥居脇の小さな公園に、自然石に刻んだ「門司ヶ関」の碑が立つ。この地がかつて門門海峡を挟んで九州側にある西海道への出入り口、陸・海路の重要な関だったことを示す。今、周辺環境、情勢は様変わりしたが立地は全く不变。劇的ドラマも多く、訪れる人を古代ロマンにいざなう。

門の開所は 600年代以前

門司についての学術的な研究論考は数多い。うち関の歴史、地名に関しては①日本書紀安閑天皇2年（535年）の条に「豊國のみさきなどに屯倉を置く」とある。豊国のみさきは門司を指し、この時に門司も誕生した②日本書紀孝徳天皇の大化2年（646年）に「諸国の関宿を定む」とあり、門司も置かれた③門司の地名については桓

は長登産出の銅を豊前国府に送る荷札とみられ、豊前国府からは大宰府へ運ばれたのでは」と話す。門司の読み方について、銅山を訪れた考古学者の森浩一同志社大名誉教授（故人）は「とつかさ」と解していたという。

「日本の歴史には必ず門司が登場する」と話すのは北九州市埋蔵文化財調査室の梅崎恵司学芸員。門司が舞台になった源平合戦、長州と小倉藩の戦争はあまりにも有名だが、時代は遡つて天慶3年（940年）、藤原純友が大宰府を目指して門司に上陸、官軍を阻んだ。門司の司は門司の総元締め的重職であることから別当と称されていたが、藤原道長時代の長保6年（1004年）、宇佐神宮との権勢争いから時の別当が殺害される事件も発生している。

一方で、門司は人の心を揺さぶるものがあり、古来、多くの文人、歌人が歌を残している。

行き過ぐる心は文字の関屋より
とどめぬ先に書きそのこれる
源俊頼
(平安朝の貴族・任地の大宰府からの縁草時之作)

歴史も自然も 門司の誇り

関門は今、橋と鉄道・国道・人道トンネル、船で結ばれ毎日幾万の車、人が行き交う。今年

2018年は、うち国道・人道

トンネル開通60周年に当たる。

戦前の1939年にまず試掘隧

道が開通、「さあ本掘りに」と

いうところで第2次世界大戦突

入により工事は中止され、戦後、

事業を再開して完成・開通した

のが1958年3月9日だつた。

2重構造で上が国道2号の車道、下が人道。総工費57億円。完成までに事故などで53人の尊い犠牲が生じた。今、老朽化の影響も考慮して新たに第3の関門道路「下関北九州道路」の実現

に向か、福岡、山口両県、北九州、下関両市が結束して運動を始めている。

門司ヶ関

その関門、門司開について梅崎さんは言う。「森林からの急

流の小河川が多いことなどから水が清潔といふ世界に誇れる環

境が生まれている。海峡は1日2万隻が往来しているのに汚れ

はない。歴史も自然も地元の誇りです」

シニアスタッフ 村田和夫

甲宗八幡宮に立つ川江直種の歌碑



甲宗八幡宮に立つ川江直種の歌碑

※1 文字ヶ関公園
中世の応永年間 門司の寺に中国から経文が
入ったことから版本を作り印刷した。大陸文化
輸入の玄関口で、文人墨客の出入りも多かつた
ことから市村制が始まった明治22年（1889年）
門司は「文字ヶ関村」の名だった。公園名
はその名残である。

◆ テーマ 古来より、人、海峡を結ぶ
門司ヶ関
開催日時 5月17日 13:00～
集合場所 12:50 旧門司三井俱楽部
乗用車利用者は13:00に
ノーコード広場
講 師 北九州シニア応援団スタッフ
受講料 500円
【参加お申し込み・お問い合わせ】
さくら編集部 ☎ 093-965-6080



文字ヶ関公園

ノーコード広場に接してあり、「門司ヶ関」の石碑が立つ。碑は5市合併前の旧門司市と同市観光協会が建てた。石材の説明版には源俊頼の歌を刻んでいる。

甲宗八幡神社

貞觀2年（860年）、清和天皇の勅命で建てられ、ご神体が甲（かぶと）であることから今の神社名になったと言われる。戦勝祈願の神としてあがめられ、足利尊氏寄進状などが残る。



文字ヶ関公園に立つ門司ヶ関の碑